

STAGE 07, "偶像主は来ませり" 1

話者	台詞 / ト書き
	■ ???
??	へえ……あの子は、 あのクリア・グローリーにも 気に入られていたようね。
??	彼を助ける『鍵』を渡す相手が、 彼女の関係者かもしれないなんて。 これも、運命の皮肉かしら。
??	……心配しなくても、わかってるわ。 誰だろうと『表』を守りたい者で あれば、『鍵』は託す。
??	だから、昔の私を——。 私の心を、ステージに縛り続けてね。 私の、アナテマ……。
	■ ライブハウス
テルミ	おーい、キミ。 こんなところで寝てると 風邪引くよ。
イオン	テルミ、 ユーザーさんを起こすのは わたしのお仕事です。
テルミ	別に誰が起こしてもいいじゃん。 なんかうなされてたし。
キョータロー	お前は【ユーザー名】に トレーニングの相手を してほしいだけだろー？
イオン	そういえばここ数日、 訓練のお誘いに熱心というか、 ご執心ですね。
キョータロー	おおかた、クリア姫の依頼に 誘い忘れたこと、 根に持ってるんじゃないの？
テルミ	そりゃまあ、多少は。 あの人は、シンガーツールが 好きな人間には憧れたし。
テルミ	でも、そんなことより。 あたしは腕をつけたいんだ。
キョータロー	ふーん。 アクトマキアが近づいてきて 焦ってるのか？
テルミ	かもね。 キミはこんなチャンスが 近づいてきて、焦らないの？
キョータロー	俺は……まあ。 そこまで目立ちたいって わけじゃ……。
ミアラカ	先生ー、 ラジエル風シフォンケーキが 焼けましたよー！
イオン	む……目覚ましに続いて、 お食事の世話まで。 わたしの仕事が減っていきます。
テルミ	なにってんの。 イオンには、イオンにしか できない役目があるでしょ。

イオン。 そうですね、テルミ。 テルミはよくわかっています。
イオン	持つべきものは友人ですね、 ユーザーさん。 では、寝起きでいきなりですが。
テルミ	ステージ、はじめるよ。
エチカ	はじめるよー！

話者	台詞 / ト書き
	//テルミ&エチカとバトル
エチカ	いっくよー！ テルミだって、 成長してるんだからー♪
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
テルミ	……………。 誘っという、寝起きに 負けるとちよつと凹むな。
キョータロー	そうかー？ 結構いいとこまで いけてたように見えたぞ。
テルミ	お世辞ありがと。 でも、まだまだ。 あたしが思う表現ができてない。
テルミ	あたしだけの、強い表現—— いい歌を作れるようになるまで、 もっと自分を追いつめなきゃ。
ミアラカ	ふおー……テルミさん、 戦う女神って感じで かっこいいですね。
イオン	でしょう、ミアラカ。 ユーザーさんの周りには、 学べる女神が集うんです。
	//パチパチパチパチ——
イオン	む……？
??	女神か。 では私は、神話の最高峰に位置する 女神の中の女神ということになるな。
キョータロー	な……！？
テルミ	いつからそこに……！？
??	配信に違わぬ腕前。 クレアが気に入るのも肯ける。 だが、そのACT——。
??	——イオンは、 私が従えるに相応しい。
イオン	……どなたでしょう。 まずは名乗るのが、 礼儀かと思いますが。
ムツキ	これは失礼した。 私は、ムツキ。 天渡ムツキ。
ムツキ	強く可愛い至極の表現にて、 オルタナステージを制覇する、 アイドルの王なり。
	……………。
	……………。

イオン	なるほど、あなたですね。 『イオンが欲しい』という依頼を 何度も送ってきていたのは。
ムツキ	既読の通知があるのに 返答が来ないのは、いささか 虚しかったぞ、イオン。
キョータロー	どうのことだ、イオン？ 客なのか？
イオン	引き受けてはいませんよ。 体裁が整っていなかったので、 黙殺していました。
ムツキ	ふふは、ひどい言葉様だ。 私がお前というACTに 惚れているのは、事実だぞ？
ムツキ	お前とその主のステージは 何度も見せてもらった。 私はすっかり、めろめろだ。
ムツキ	ヒロインを名乗るのであれば、 最も可愛い、私の隣に立つべきだ。 それが真理であり、定理である。
イオン	わたしはそのような真理も定理も 存じあげません。 検索結果もゼロです。
ムツキ	お前の検索は参照しない。 私が確認したいのは お前を使う、お前の主の意思。
ムツキ	【ユーザー名】よ。 貴様は、ACTの期待に応える ステージを行えていると言えるか？
	//選択肢 ※結果は同じ A 努力はしている B それなりに
ムツキ	まあ、どちらでもいい。 貴様の意思がどうであろうと、 私は塗り替えることができる。
テルミ	……ものすごい自信。
ミアラカ	ウソではないっぽいです……。 この人の魂の力、前に会った シンジって人と同じか、それ以上……！
ムツキ	お前はどうかのだ、イオン。 お前の主は本当に、お前が信じる 英雄たる力を備えているのかな？
ムツキ	才覚の誤びゅうは、屍の山を生むぞ。 裁きの神ヴァルナが従えし レイヤード社会を牽引するなれば。
イオン	……………。
ムツキ	いずれにせよ、私はあきらめぬ。 今回は顔見せだけにしておくが、 次は力づくでもいただいでいく。
ムツキ	【ユーザー名】よ。 運命を手放すチャンスだ。 覚悟して待つておくがいい。
キョータロー	……………。 なんだったんだあいつ。 メチャクチャな言い分だったな。
テルミ	でも、可愛い子だった。 ステージ映えしそう……。
ミアラカ	イオンさん…… 先生のこと置いていたり しないですよね？
イオン	当然です、ミア。 わたしは絶対に、ユーザーさんの 前からいなくなったりしません。
	■???
??	お~とっと。 先に取られちゃうと 困るんだな~。

STAGE 07, "偶像主は来ませり"2

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
カツマ	天度ムツキが来た！？ どうしてすぐに、 連絡してくれないんだ！
キョータロー	来るなり興奮すんなよ、カツマ。 あの女のこと知ってんのかよ？
カツマ	知らないほうが不自然だろう。 最強に可愛い、本人もアイドルの スーパーアイドルACT使い！
カツマ	最もアクトマキアの頂点に近く、 最もレイヤードの絶頂に近いと されている、希代の天才だよっ！
キョータロー	お、おう……そうなんだ。
ミアラカ	よどみのない解説ですねー。 アイドル好きだったんですね、 カツマさん。
テルミ	彼、今イチ趣味とか思想とかが わかりづらいところあるよね……。
カツマ	ああ、見てみたかったなあ。 生アイドルなんて、 そうそう見られないからなあ。
テルミ	ていうか、本当にアイドルだったんだ。 そっちは詳しくないけど、 強いアイドル使いの噂は聞いてたよ。
ミアラカ	そんな人に見初められるなんて、 やりますねえ、イオンさん。
テルミ	ヒロインを奪いにくるアイドル、 なんて意味不明だけだね。 目立つのはうらやましいよ、イオン。
キョータロー	……【ユーザー名】、 ハーレムじみてきたと思ってたが、 ヒロインを争う戦いになってきたぞ。
カツマ	まあ、ACTを一方的に 強奪するなんて無理だからね。 そこまで気にすることも――
カツマ	……ん？ 【ユーザー名】。 イオンちゃん、様子がおかしい？
イオン	……………。
テルミ	イオン……？ どうしたの、黙っちゃって。 狙われてるのはキミなんだよ。
イオン	……………。
ミアラカ	……………！ 先生、イオンさんから――

ミアラカ	イオンさんから、 魂の核が抜けちゃってます！
キョータロー	出たよ、オカルト発言。 ACTに魂なんか あるわけねーだろ。
ミアラカ	ありますって！ 感じない人には永久に わかんないだけですッ！
カツマ	……魂がどうかは別にして、 様子がおかしいのは確かだ。
カツマ	【ユーザー名】。 イオンちゃんに、なにか聞いてみて。
	//選択肢 A 今日の献立なんだっけ？ B 昨日は何時に寝たっけ？
選択肢A	今日の献立なんだっけ？
イオン	……本日のメニュー。 予定では、八宝菜定食と なっております。
選択肢B	昨日は何時に寝たっけ？
イオン	……先日の就寝時間。 記録では、午前2時と なっております。
合流	
イオン	……………。
テルミ	……質問への反応だけだね。 これってつまり……。
カツマ	『会話にならない』。 知能が、汎用ではなく特化—— いや、希薄化してる。
キョータロー	お、おい、イオン。 お前、マジでバグっちゃったのか？
イオン	……………オ。
キョータロー	オ！？
イオン	オルタナ……緊急に、 オルタナステージの申請。 ステージ、開始します。

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとのバトル
??	ちょっとだけ、 レイヤードに負荷をかけるよ～。 大丈夫、すぐ終わるから。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
??	いきなりアクセスごめん。 ちょっとイオンちゃんの インテリジェンス、借りてくねー。
	//選択肢 ※結果は同じ A 誰……？ B イオンを借りる？
キョータロー	どした、【ユーザー名】……？ そっちには誰もいねーぞ。
キョータロー	つーか、なんだ今のステージは？ 相手もいねーのに 開始されるなんて……。
テルミ	原因はどうあれ、 イオン、動いてたよ。 ただ――。
カツマ	今のイオンちゃんの行動は、 蓄積されたパターンの 簡素な再生に過ぎなかった。
ミアラカ	だから言ってるじゃないですかー！ イオンさんの魂は、離脱して アストラル旅行状態なんですって！
キョータロー	意味わかんねーって。 【ユーザー名】が 余計に混乱するだろ。
ミアラカ	う、うう……だって、 そうとしか～。
カツマ	理論や推定はさておき、 イオンのAIが限定的にしか 機能していないのは事実だ。
カツマ	いったいなにが…… どうなったら、ACTが こんな状態に陥るんだ？
テルミ	あのムツキって子の せいなのかな……。 さっきの変なステージも。
ミアラカ	そうですね、きっと。 他に原因なんて、 見当たらないですもん！
カツマ	うーん…… 因果が不明な気はするけど。 他に手がかりもないか。
テルミ	会いにいってみようよ。 イオンがこのままってのも、 気分悪いしさ。
キョータロー	……そうするしかねーか。 【ユーザー名】、 アイドルをスカウトに行くぞ！
イオン	……………。

STAGE 07, "偶像主は来ませり"3

話者	台詞 / ト書き
	■サウンドスタジオ
カツマ	……この辺りが、 天渡ムツキの練習場所かな。 ファン情報だけど。
キョータロー	ワリとすぐに見つけたな。 なんか、物足りねーけど。
テルミ	物足りないって、なにが？
キョータロー	いつもならイオンが、空気無視して 『ここです、ユーザーさん』って 騒ぎだすシーンだからな。
テルミ	あはは。確かに静かだと、 本気で不意打ちしにきた カンジになるね。
イオン	……………。
カツマ	イオンちゃんは、 ここに来てもだんまりか。 まるで別人……いや、別ACTか。
ミアラカ	大丈夫ですよ、先生。 イオンさんの不足分は、 私がフォローしますから。
ムツキ	ほう。 彼の露払いでもするつもりか、 シャンバラの守り人よ。
ミアラカ	んぎゃ、もう来たッ！
カツマ	天渡ムツキ……！
ムツキ	私にイオンを譲り渡す、 約定を交わしに来たか？ それならば歓迎するが。
カツマ	めっちゃ可愛い。
ミアラカ	んなわけないでしょう。 私達は、イオンさんの魂を ゲットバックしにきたんですよ！
ムツキ	……………？
カツマ	さすが現役アイドル。 天然ものの肌は違うなあ。
キョータロー	カツマ、ちょっと黙っててくれ。 話がブレる。
ムツキ	……ヒロインの譲渡に来た、 というわけではなさそうだな。
テルミ	とーぜんでしょ。 天才だかアイドルだか知らないけど、 イオンは彼のACTなんだから。

ミアラカ	ですよ、ムツキさん！ イオンさんを返さないなら、 カづくで奪い返します！ 先生が！
ムツキ	意味がわからん。 だが、実力行使は嫌いではない。 ——相手をしてやろう。
ムツキ	まずは小手調べだ。 私達の可愛さの一端を 見せてやるぞ、ミカ！
ミカ	はい、ムツキ！ 春見未果、張りきっちゃいまーす♪

話者	台詞 / ト書き
	//ムツキ&ミカとバトル
ムツキ	意思の強さとは、意識の高さに非ず。 ステージの恐ろしさを 我々が教えてやるぞ、ミカ。
ミカ	はいつ。 一生懸命歌って、 みんなを元気にしてみせます！
イオン。
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
	■サウンドスタジオ
ムツキ	……なんだ、そのザマは？ まさか本気で演って、 その程度ではあるまいな？
カツマ	かつ……可愛い！ 可愛いが、なんて苛烈な ステージスタイルなんだ！
キョータロー	ギャップありすぎんだろ！ アイドルはもっとこう、 儂げなもんじゃねーのか！？
ムツキ	ふん。古く狭いアイドル像に 縛られているようだな？ 私は違うのだよ。
ムツキ	英雄も、アーティストも、歌姫も。 悪魔ですらも、可愛く強く凌駕する。 それが私のアイドル像——。
ムツキ	ヒロインはアイドルであればよい。 私に隷属し、その可愛さを レイヤードに現しめればよい！
ミアラカ	ひい…… 価値観がエモすぎて ついてけないです……。
キョータロー	やっぱりお前なのか、 イオンをこんなにしちまったのは？
イオン	……………。
ムツキ	……………？
ムツキ	なにを言いたいのかは知らんが、 イオンをあきらめる気は ないようだな。
テルミ	ACTは自分の信念も同然でしょ。 無理矢理あげたりあきらめたり、 できるわけないじゃん。
ムツキ	ほー。ACTとのマッチングに 誇りを持っているようだな、 シンガーツールの使い手よ……。
ムツキ	【ユーザー名】。 貴様も、己が呼び起こした ACTに誇りを抱いているのか？
ムツキ	もし、そうであるなら。 改めて貴様を試してやってもよい。 会いに来た以上、覚悟はあるのだろうか？
ムツキ	相応しき舞台は私が用意する。 せいぜい、準備を整えて 抗いにくることだ。
ムツキ	ふふふ…… ふふはははははははははッ！
テルミ	……消えた。
キョータロー	帝王学でもマスターしてんのか、 あのアイドル……。

カツマ	彼女は、自由なんだよ。 自由な上で、他人を楽しませることに 命を惜しまないんだ……！
ミアラカ	目を輝かせてる場合ですか、 カツマさん。 イオンさんの魂がかかっているんですよ。
カツマ	……そうだね、ごめん。 だが、完膚なきまで彼女を下さないと 話は聞いてくれそうにない。
カツマ	このかけひきは 簡単には終わらないよ、 【ユーザー名】。
イオン	……………。

STAGE 07, "偶像主は来ませり"4

話者	台詞 / ト書き
	■ライブハウス
テルミ	なんだかおおごとになってきたね、 【ユーザー名】。 現役アイドルと対決とかさ。
ミアラカ	イオンさんは今も、 魂が吹き込まれていない ゴーレム状態です……。
テルミ	あたしには魂のあるゴーレムと 魂のないゴーレムの区別は つかないけど——。
イオン	……………。
テルミ	——今のイオンは、 そこらの人形にも見えないね。 人形はもっと表情あるもん。
キョータロー	なあ、カツマ。 やっぱヘンじゃねーか、この状況。
カツマ	うん。違法カスタマイズでもしなければ ACTの知能水準が希薄化する、 なんてことは起こりえない。
テルミ	……あの子が犯人ってわけじゃ ないのかな。
ミアラカ	んでも、あの人が来てから イオンさんはこうなったんですよ。 無関係とは思えません！
キョータロー	だな……あいつに、 もう一度心当たりを聞かなきゃ はじまんねーな。
	■ライブステージ
カツマ	ここが約束の場所だね。 なんて可愛い空気……。 ウズウズしてきたよ。
キョータロー	さすがカリスマアイドルだな。 こんな大規模な施設を 個人で借りれちゃうのか。
ムツキ	待ちわびたぞ、 有象無象の前座どもよ。
ミアラカ	天渡ムツキ……！
ムツキ	ヒロインを巡るステージが、 地味な背景ではつまらんからな。 存分に暴れさせてやろう。
テルミ	ちょっと待って。 戦う前に、少し話がしたいんだけど。
ミアラカ	そーなんです、交渉です交渉。 悪魔と交渉しませんか、 アイドル使いアイドルさん！
ムツキ	話し合い？ この期に及んで、 猥雑なおためごかしで 舞台をおとしめようというのか。

キョータロー	いやいや、 そういうんじゃないかって……。
ムツキ	笑止。 つまらぬ八百長、下らぬ猿芝居を 語るための舌は持たぬ。
ムツキ	お前達もステージで戦う者なれば。 己が培った技術で、 信じるACTの魅力を伝えてみせよ！
カツマ	取り付くシマもないね。 やれるかい、 【ユーザー名】？
ムツキ	ふふはは、来いッ！ まずは我がバックダンサーと ファンに、貴様らが炎をくべよ！！

話者	台詞 / ト書き
	//ウィークAIとバトル
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
ムツキ	……………。 失望したぞ。
ムツキ	この程度なのか……？ それとも、ふざけているのか。 全くもって卑小貧弱無能無為。
ムツキ	貴様らが以前の配信で見た 輝きと煌めきのステージは、 私の見間違いだったのか！？
ミアラカ	ひいひい…… 可愛いのにすごい尊大……！
テルミ	……勝ってるのに、 メチャクチャな言われようだね。
ムツキ	この程度の腕前で！ この程度の感性で！ ステージ上の英雄を名乗るのか！？
ムツキ	強くも、美しくも、可愛くもない！ 貴様ごときの生きかたに、 ヒロインは相応しくないッ！！
キョータロー	ぐぐ……！ 全否定されてやがるぞ、 【ユーザー名】……！
ムツキ	友人を卑下されるのが悔しいか、 ヴァイカウントの主よ。 貴様から相手にしてもいいぞ？
キョータロー	……の、望むところだッ！ いくぞ、ヴァイカウント！
テルミ	キョータロー。 キミの次は、あたしがエチカで挑む。
ヴァイカウント	任せろ、キョータロー！
エチカ	エチカだって、 歌う女の子なんだぞー！
ムツキ	構わん。 まとめてかかってくるがいい、 三流エンターテイナーども。
ムツキ	さあ、こたびはお前が 可愛くパフォーマンスする番だ、 チホ！
チホ	わかったわ、ムツキ。 舞倉チホ、 誠心誠意、歌わせてもらいます。
	//画面暗転。
キョータロー	……………くそッ！ 全然歯が立たねえ……！
テルミ	ボロ負けて…… あ、あはは、参るね……。
ムツキ	ザコどもが。 UNPLばかり気にして、 腰が引けているからその程度なのだ。

ムツキ	その貴様らも、そうなのか？ マガイモノの英雄の傍らには、 マガイモノの魂が集うのか？
ミアラカ	み、ミア達のことを 言われてますよ、カツマさん。 やっちゃいますか？
カツマ	一時の感情に寄るな、ミアちゃん。 僕らが向かって、今の彼女の 心を変えるには足りない。
カツマ	……どうしたものかな 【ユーザー名】？
ムツキ	……………。 もういい。 飽きた。
ムツキ	己の信念を世に問えず、 『表』に生きる気概がないのなら。 私の前から立ち去れ。
ムツキ	ヴァルナのあしらいかたも知らぬ 貴様を、私は英雄とは認めん！ 【ユーザー名】！

STAGE 07, "偶像主は来ませり"5

話者	台詞 / ト書き
	■ ???
イオン	……………。 この状況は……………。
イオン	そうですか。 ……ユーザーさんが、 わたしをデリートされたと……………。
??	そーゆんじゃないんだなー、 これが。
イオン	んむ？ ACT化していないわたしに 話しかけられるなんて、どなた——
イオン	——いえ、何者でしょうか？
??	強いていうなら～、 お母さんかなー。
イオン	あり得ません。 概念のキャラ化であるわたしに、 母と呼べる知性はいません。
??	ふっふふ、そうだね。 じゃあ『プレロマ』って呼んで。 仮名だけど。
イオン	では、プレロマ。 わたしをこの状態に 規定したのは、あなたですか。
プレロマ	そうです。ACTであれば、 だいたいは何んとかできちゃう、 シンギュラリティ以降の存在だよ。
イオン	はあ。 そのすごいプレロマが、 わたしになんのご用でしょう。
プレロマ	あなたの振る舞いが、あまりにも イレギュラーだったもんで、 気になっちゃってね。
イオン	……わたし、 やっぱり変ですか？
プレロマ	うんうん、個性的でユニーク。 だから、あなたの知能を 解析したいって思うの。
プレロマ	いずれ……いえ、近いうちに。 このレイヤードに、特異な攪張を 迎えたACTが現れます。
プレロマ	そのときに、多くのACTや コンテンツが、 危機に陥ることでしょう。
イオン	……………。 それは、大変ですね。
プレロマ	そう、ヤバいぐらい大変。 あなたぐらいのACTなら、 予測できてもおかしくないけどね？
プレロマ	カオスが叛乱した状況は、 私も喜ばしくない。 だから、先手も用意したいの。

イオン	わたしを解析することが、 先手になるのですか？
プレロマ	イレギュラーの前例として、ね。 ヒントはなるたけたくさん あったほうがいいと思うんだわ。
イオン	ふむ。 では、必須ではないのですね。
プレロマ	必須な情報なんてねーのよ。 現実には、積み重ねのレイヤーが 全体で意味を成すんだから。
イオン	同意します。 が、申し出は拒否します。
プレロマ	あうふ。 明快即決っすね。
イオン	わたしは、ユーザーさん以外の 誰かの隣には、座りません。 それが知性の設計者であろうとも。
イオン	わたしは、わたしを見つけてくれた あのかたの運命にのみ、 寄り添います。
プレロマ	ふー、健気。 でもね、そのこだわりは、 不完全なマッチング故のものだよ。
プレロマ	あなたと彼の関係は、 紛うことなきエラー。 向かう地点はカオスの臨界だから。
イオン	他人から見て例外か、 特異かなどはわたし達の関係に 関係ありません。
イオン	それに、ユーザーさんの行く道は カオスのみではありません。 あの人は、必ず正しい道を歩きます。
プレロマ	期待が重すぎると、潰しちゃうかもよ。 人間の余裕は有限なんだから。
プレロマ	今だって……ほら、感じるでしょ？ 彼、とんでもない偶像魔人に、 追いつめられちゃってる。
イオン	……………！
イオン	それを早く言ってください！ ユーザーさん、すぐに お手伝いいたします！！
	//画面ノイズ
プレロマ	……ちょ、まさか。 ユーザーの命令なしで、 レイヤードに現れようとしているの？
イオン	命令はすでにされています。 ユーザーさんの隣で、その物語を 助けると——出会ったときから。
プレロマ	不可能だって。 どんだけのプロテクトをかけて あなたを封じたと思ってるの？
イオン	関係ありません。 わたしは……わたし…… わたしはユーザーさんを……。
プレロマ	そこまでユーザーのアカウントに 思い入れを……？ 本当に、前例がなさすぎだわ。
プレロマ	……そのまま抗い続けたら 破損するよ、イオン。 あなた、壊れちゃっていいの？
イオン	壊れて困る心など、 わたしにはありません。 それに——。
イオン	——それに。 英雄を待つだけのヒロインは、 レイヤードに相応しくないでしょう？
	■ライブステージ

ムツキ	ヴァルナのあしらいかたも知らぬ 貴様を、私は英雄とは認めん！ 【ユーザー名】！
イオン	いいえ。 あなたが認めずとも、 ユーザーさんは英雄です！
キョータロー	イオン！？
テルミ	イオンなの！？
ミアラカ	わー！ イオンさんの魂が、 戻ってきてます、先生！
ムツキ	……………！？
カツマ	イオンちゃん……………！ 良かった、 なにが起こってたんだ？！
イオン	…………ええと。原因不明の、 サーバーアクセス不良により、 記憶の同期が不可能になりまして。
キョータロー	お前だけ緊急メンテでも 入ってたのかよ？ そんなことあり得るか……………？
イオン	あり得るみたいです。 どうやらわたし、 ちょっと変なACTみたいなので。
キョータロー	自覚すんのおっせえな！
ムツキ	……………なるほど。 ここまで、イオンの力を 温存してきたのだな？
ムツキ	してやられた、というわけか。 ふふはは……………そうか。 不粋だったのは、私だったか。
イオン	流れがよくわかりませんが…………… ユーザーさんをマガイモノ呼ばわりは、 聞き捨てなりません。
イオン	たとえ神という概念が許しても。 ヒロインであるわたしが 認めませんよ、ムツキ！
ムツキ	人とある限り、 神をも恐れぬ被造物か。 正しい。実に正しいぞ、イオン。
ムツキ	そして、実に気に入った！ 真のヒロインと英雄のステージを 披露してもらおう！
イオン	望むところです。 そして、お待たせしてすみません、 ユーザーさん。
	//選択肢 A おかえり、イオン B 行こう、イオン
選択肢A	おかえり、イオン
イオン	はい、ただいます。 ユーザーさんが戦うなら、 どこからでも帰ってきますからね。
選択肢B	行こう、イオン
イオン	はい、ユーザーさん。 あなたとであれば、 いつでも、どこへだって。
合流	
イオン	さあ！ 英雄とアイドルの決戦ですよ！

話者	台詞 / ト書き
	//ムツキ&ミカ/チホとバトル
ムツキ	ミカ、チホ。 お前達の可愛さこそが、 レイヤードの正義と教えてやれ！
ミカ	わかってますよっ、 ムツキP！ いこう、チホちゃん！
チホ	ええ、アイドルの歌も 世界を変えられるってことを 証明するわよ、ミカ！
	//バトル終了

話者	台詞 / ト書き
ムツキ	ふふ……悪くない！ パフォーマンスはまだまだが、 このムツキ、きゅんきゅんしたぞ！
イオン	ふむ。 言うだけのことはありますね。 そしてとてもキュートでした。
イオン	アイドル。人を光に導く瞬き。 ヒロインと同等に古い概念。 鮮やかな学びです、ユーザーさん。
ムツキ	ほう。私に——アイドルに 興味がわいたか、イオン？
イオン	興味はありますが、 ACTにはなりません。 どんな条件を出されてもダメです。
ムツキ	そうか。 その強い意志、やはりよいACTだ。
ムツキ	だが、惚れこんだ相手は 必ずスカウトして我がものとする。 それが私のスタイルでね。
イオン	む……。 話の通じない人ですねー。
	//選択肢 A お互いにね B ヒロインもアイドルもガンコだね
選択肢A	お互いにね
イオン	んむ？ 会話能力ならば、わたしは かなりのものだと思うのですが……。
選択肢B	ヒロインもアイドルもガンコだね
イオン	む……確かに、 アイドルの強い意思是、 学びがいがありますね。
合流	
ムツキ	【ユーザー名】。 イオンが可愛いのであれば、 いかなるときも油断するなよ。
ムツキ	また奪い合うのであれば、 次は、遥かな高みの上——。
ムツキ	アクトマキアの頂上で ヒロインの争奪戦と洒落こもう。 ふふ、はははははははッ！
イオン	……ふーむ。 わたしはモテ期なのでしょうか、 ユーザーさん。
	■ライブハウス
キョータロー	ふ～……やっと、 ひと息ついたな。

テルミ	疲れたね……。今のところはみんな、UNPL上がってないけど。
カツマ	視聴者が、不快を示すヒマもなかった。……これが『表』の真髓か。
ミアラカ	イオンさん、先生もみんなも心配したんですよ。もう家出しちゃダメですから！
イオン	家出ですか。予想していなかった解釈です。
イオン	そして、迷惑をかけてしまったみたいですね。心配させてすみません、みなさん。
テルミ	別にいいよ。カリスマ相手に腕試しできる、いい機会だったし。
カツマ	僕的にも目の保養……。いや、いい経験だった。
イオン	ユーザーさんも、すみません。もういなくなったりはしませんから、安心してください。
イオン	改めて、約束します。ユーザーさんと重なる、この指にかけて。
	//選択肢 A じゃあ、指切りしよう B 小さい指だ
イオン	はい。わたしは、ここにいます。ここでは、わたしに触れられます。実感したければできますよ。
イオン	レイヤードの体験を——わたしを信じてくださいね、ユーザーさん。
キョータロー	やれやれ、ベタベタしやがって。はた迷惑な英雄とヒロインだよなー、全く。
	■???
プレロマ	……とことんイレギュラーだなー、あの子。それを使う彼も。
プレロマ	でもなあ。いくら前向きでも、イレギュラーどころか、オーバーしてるACTもいるし。
プレロマ	この先の運命は厳しいよ。みんな……いつまで抗える？